

歴史が面白い！

腰神神社

腰神神社は嬉の石川東岸に連なる山並みの市内最高峰金胎寺山より派生する山腹の巨石をご神体とする神社です。御祭神は、箕島宿彌（みのしまのすくね）、八大龍王（はちだいりゅうおう）、猿田彦尊（さるたひこのみこと）、国光大明神（くにみつだいみょうじん）です。創始は大化の改新（645年）の頃と伝わる。

和歌山紀伊の国の豪族、箕島宿彌は文武の師範として紀伊見峠を越え嬉村に移り住む。

宿彌の側室玉藻姫は大和の国桜井の豪族の娘。宿彌は河川にて文武を広めた後、功績をたたえられ腰神神社にお祀りされた。

建武元年（1334年）、観心寺に居た楠木正成が後醍醐天皇の鎌倉幕府討伐の途中、愛馬の千早丸の腰が立たなくなり神社の藤の木につないでお祈りしたところ腰が治ったとある。そして勝利の祈願をし、幕府討伐に出陣されたと伝えられている。このとき楠木正成より嬉村城山の守り神として、黄金毘沙門天と菊水の御紋を賜る。それ以来神社に絵馬がかけられるようになり、名もある武将も多く参拝されたという極めて由緒ある神社である。



「道ばたに うっ蒼たるや 藤の森」雪舟

樹齢約700年の
古木「藤」見頃 4～5月

※一見の価値あり

だんじり祭り 10月第2土・日

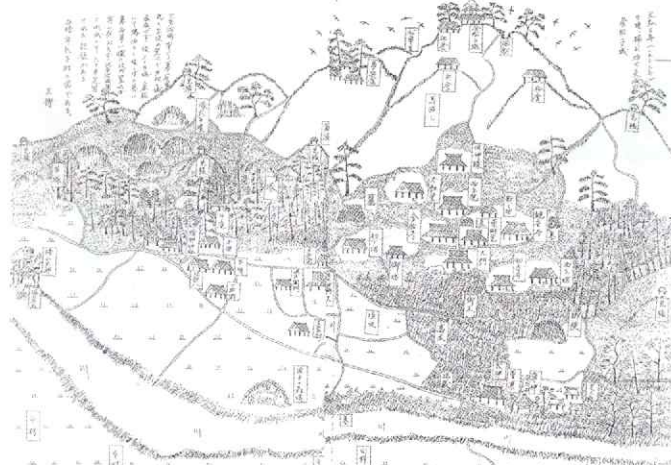
嬉・伏見堂・彼方（おちかた）春日神社奉納

金胎寺山

金胎寺山は標高296.4mで富田林市で一番高い山である。金胎寺城は後醍醐天皇に仕えた楠木正成が鎌倉幕府と戦うため南北朝時代元弘3年（1333年）に楠木七城の一つとして築城したものである。

楠公の戦法で有名な山の急斜面を利用した岩石・木材落とし・菊水の旗戦術を、この城でも行い、幕府軍を苦しめたと伝えられている。その後も南朝・北朝の争いが続き、その結果、北朝方の畠山氏が勝利し、正平15年（1360年）に畠山氏の支城となった。

室町時代の中期には、畠山氏のお家騒動の時、立てこもった畠山義就が幕府軍の畠山政長に敗れ寛正4年（1463年）落城した。山の麓に金胎寺が存在したことから金胎寺山と呼ばれているが、地元では城山として親しまれている。



〔南北朝時代の嬉村〕(1333年)

頂上付近植樹(平成25年)



ソメイヨシノ 100本
[見頃] 3～4月



サルズベリ 30本
[見頃] 7～10月



ハナミズキ 30本
[見頃] 3～5月



JA大阪南

楠公さんゆかりの

散策マップ

自然と歴史の里山を見て歩く



金胎寺山
(こんたいじさん)



腰神神社
(こしがみじんじゃ)

町名 嬉（うれし）
南北朝時代は「宇礼志」と称した

富田林市嬉・城山クラブ

金胎寺山 富田市の最高峰山頂 296.4mよりの眺望

金胎寺山



標高296.4m富田林市の中では一番高い山です。
後醍醐天皇に仕えた楠木正成が鎌倉幕府と戦うために元弘3年(1333年)に楠木七城の一つとして築城しました。

腰神社



創始は大化の改新（645年）頃と
伝わる。建武元年（1334年）観心
寺にいた楠木正成が腰を痛めた馬
の千早丸を神社の藤の木につない
でお祈りしたところ腰が治ったと
伝わる。

